

平成24年第1回美祢市議会臨時会会議録

平成24年1月12日(木曜日)

1.出席議員

1番	馬屋原 眞 一	2番	岡 山 隆
4番	高 木 法 生	5番	萬 代 泰 生
6番	三 好 睦 子	7番	山 中 佳 子
8番	岩 本 明 央	9番	下 井 克 己
10番	河 本 芳 久	11番	西 岡 晃
12番	荒 山 光 広	13番	柴 崎 修一郎
14番	田 邊 諄 祐	15番	山 本 昌 二
17番	原 田 茂	19番	河 村 淳
20番	大 中 宏	21番	南 口 彰 夫
22番	安 富 法 明	23番	徳 並 伍 朗
24番	竹 岡 昌 治	25番	布 施 文 子
26番	秋 山 哲 朗		

2.欠席議員 2名

3番	有 道 典 広	18番	村 上 健 二
----	---------	-----	---------

3.欠 員 1名

4.出席した事務局職員

議 会 事 務 局 主 査	岩 崎 敏 行	議 会 事 務 局 主 査	岡 崎 基 代
---------------	---------	---------------	---------

5.説明のため出席した者の職氏名

市 長	村 田 弘 司	副 市 長	林 繁 美
総 務 部 長	波 佐 間 敏	総 合 政 策 部 長	田 辺 剛
市 民 福 祉 部 長	金 子 彰	病 院 事 業 局 管 理 部 長	藤 澤 和 昭
建 設 経 済 部 長	伊 藤 康 文	総 合 観 光 部 長	福 田 和 司
総 務 部 次 長	倉 重 郁 二	総 務 部 財 政 課 長	奥 田 源 良
総 合 政 策 部 次 長	篠 田 洋 司	市 民 福 祉 課 長	白 井 栄 次
下 水 道 事 業 長	久 保 毅	高 齢 福 祉 課 長	綿 谷 敦 朗
教 育 長	永 富 康 文	総 合 観 光 振 興 課 長	山 田 悦 子
		教 育 委 員 会 長	
		事 務 局 長	

消 防 長	坂 田 文 和	会 計 管 理 者	古 屋 勝 美
美 東 總 合 長	藤 井 勝 巳	秋 芳 總 合 長	杉 本 伊 佐 雄
支 所	三 好 輝 廣	支 所 委 員 長	西 山 宏 史
代 表 監 査 委 員 會 長	石 田 淳 司	監 事 農 業 委 員 會 長	西 田 良 平
教 育 委 員 會 長		事 務 局	

6 . 付議事件

日程第 1 會議録署名議員の指名について

日程第 2 会期の決定について

日程第 3 議案第 1号 平成23年度美祢市一般会計補正予算(第10号)

日程第 4 議案第 2号 美祢市高齢者コミュニティセンターの設置及び管理
に関する条例の廃止について

7 . 會議の次第は次のとおりである。

午前10時00分開会

議長（秋山哲朗君） 只今から平成24年第1回美祢市議会臨時会を開会いたします。

〔議長 秋山哲朗君 登壇〕

議長（秋山哲朗君） 第1回美祢市議会臨時会の開会に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

輝かしい平成24年の新春を迎え、ここに議員の皆様、また村田市長を初め、執行部の皆様のお健やかなお姿に接し、新年のごあいさつを申し上げますことを心から光栄に存ずる次第でございます。

さて、美祢市もことし3月には、合併後丸4年が経過するわけではありますが、現在第1次美祢市総合計画に基づき、美しい自然環境と豊かな歴史文化資源を最大限に生かし、より豊かで魅力的なまちづくりを形成するため、交流拠点都市、観光立市の創造を目指して行財政運営がなされていますが、おかげさまで極めて順調に推移しておりますことは、まことに喜ばしい限りであります。

また、美祢市議会におきましては合併後、議会改革に取り組み、昨年、地方自治の本旨の実現を目指す議会基本条例を策定いたしました。

本年4月には、私ども議員も4年の任期が満了いたしますが、この市議会議員選挙から議員定数は現在の定数26人から7人削減し、定数19人で行われます。議員定数が削減されましても、地方自治の基本である市長と議会による二元代表制を踏まえ、その一翼を担う存在である議会には、団体意志の決定機関としての機能や執行機関を監視、評価する機能をより発揮していくことが求められております。こうした機能を発揮していくためには、議会は広く市民の皆様の意見や要望を把握し、それらを持ち寄りながら自由闊達な議論をすることにより、市政における課題、論点、争点を市民に明確にする義務があります。今後、本市が抱えております過疎、少子高齢化や雇用の確保、住民の生命、財産を守るための防災対策といった難題と向きあい、地域の実情、住民のニーズに合った政策を推進し、元気な地域の創造実現に向けて取り組んでまいりたいと存じます。

どうか、議員並びに執行部の皆様の暖かい御理解と絶大なる御協力を賜りますよう、切にお願い申し上げます、年頭のごあいさつといたします。まことにありがとうございました。

〔議長 秋山哲朗君 議長席に着く〕

議長（秋山哲朗君） この際、市長より年頭のごあいさつがございます。村田市長、どうぞお願いいたします。

〔市長 村田弘司君 登壇〕

市長（村田弘司君） 平成24年の念頭にあたりまして、議長並びに議員の皆さんに謹んで新年のお喜びを申し上げます。

平素から市政各般の推進に当たりまして、深い御理解と御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、東日本大震災という未曾有の大災害の発生より、多くの尊い命が犠牲となり、東北地方が壊滅的な被害を受けるなど、国民の安全・安心が脅かされた1年でありました。その一方で、災害時における基礎自治体の重要性や、人と人、地域の絆の大切さを改めて認識をさせられた年でもあったというふうに思っております。

また、本市におきましては、1年以上運転を休止をしておりましたJR美祿線の運転再開、企業誘致の成功、社会復帰促進センター増設棟の完成など、混沌としてなお予断を許さない社会情勢の中で、本市の未来への希望の光を感じられる年でもあったというふうに考えております。

さらに、美祿市のまちづくりの指針であります、第1次美祿市総合計画の10年間の計画期間の2年目に当たり、基本理念に向かって着実に前進した年であったと考えております。

さて、本年も地方分権や少子高齢化時代の到来、また厳しい経済情勢の中、第1次美祿市総合計画の五つの基本目標であります「安全・安心の確保」「観光交流の促進」「産業の振興」「ひとの育成」「行財政運営の強化」に向かいまして、諸施策を市民の皆様方、また議員の皆様方と心をつなげて着実に推し進め、基本理念でもあります「市民が夢・希望・誇りをもって暮らす交流拠点都市美祿市」の実現に向けて邁進をしまっている所存でございます。

さて、2012年は辰年、昇竜に象徴される飛躍の年でもあります。昨年の暮れにも申し上げましたが、私はことしのテーマを「スプリング美祿」といたしております。スプリングは日本語にするとばねでございますけれども、本来は様々な意味を持っております。一つには春、一つにはわき出る泉、一つには躍進、一つには柔

軟といったイメージは、ことしの美祢市にまさにふさわしいものであるというふう
に確信をしております。柔軟の姿勢がわき出る泉のような大きな力を生み出し、美
祢市の躍進を支え、春のようによき時期を迎えることを願ひまして、誠心誠意取り
組んでまいりたいというふうで覚悟を決めております。

終わりにになりましたが、本年も議長を始め議員の皆様方の絶大なる御支援、御協
力を、衷心よりお願いを申し上げますとともに、美祢市議会のますますの発展と、
議員の皆様方の御健勝、御活躍を御祈念申し上げます、年頭のごあいさつとさせて
いただきます。本年もよろしくお祈りを申し上げます。

議長（秋山哲朗君） この際、事務局より諸般の報告をいたさせます。議会事務局
主査。

議会事務局主査（岩崎敏行君） 御報告いたします。

本臨時会に本日までに送付してございますものは、執行部から議案第1号と議案
第2号の2件でございます。

本日机上に配付してございますものは、会議予定表、議事日程表（第1号）、議
案付託表、以上3件でございます。

御報告を終わります。

議長（秋山哲朗君） 本日の議事日程は、お手元に配付いたしております日程表の
とおりでありますので、御協力をお願いいたします。

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第80条の規定により、議長において高木法生議員、
萬代泰生議員を指名いたします。

日程第2、会期の決定についてを議題といたします。

お諮りいたします。今期臨時会の会期は、本日1日間といたしたいと思ひます。
これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（秋山哲朗君） 御異議なしと認めます。よって、会期は1日間と決定いたし
ました。

なお、会期中の会議予定につきましては、お手元に配付いたしております予定表
のとおりでありますので、御了承をお願いいたします。

日程第3、議案第1号と日程第4、議案第2号を会議規則第35条の規定により、

一括議題といたします。

市長から提案理由の説明を求めます。村田市長。

〔市長 村田弘司君 登壇〕

市長（村田弘司君） 本日平成24年第1回美祢市議会臨時会に提出をいたしました議案2件について御説明を申し上げます。

議案第1号は、平成23年度美祢市一般会計補正予算（第10号）についてであります。

このたびの補正は、かねてから申請をしておりました県補助金が確保できたことによる、平成24年度事業を前倒しをして実施をする経費、及び昨年11月21日に成立した国の第3次補正予算により追加をされた学校耐震化事業の経費を補正するものであります。

まず、歳出であります。商工費におきまして美祢市魅力再発見事業委託料として250万円を計上しております。これは、秋吉台や秋芳洞を始めとする市内の地域資源を活用してロゲイニングポイントを設定をするもので、冒頭申しましたとおり、県補助金が確保できたことから、事業を前倒しをして実施するものであります。

只今申し上げましたロゲイニングとは、オーストラリア発祥の競技でございます。地図、コンパスを使って山野に多数設置をされたポイントをできるだけ多く制限時間内に回り、各ポイントに設定をされた得点の合計点数を競います、野外スポーツであります。

この競技は、オリエンテーリングと似てはいるものの、ポイントが多数設置されていること、また、ポイントをたどる順序が決められておらず、競技の参加者が自由に決定できることなどがオリエンテーリングと異なっております。

この事業によりまして、ロゲイニングポイントを調査、設定することによりまして、美祢市の魅力を再発見をし、市民協働によるイベント等を開催をすることで、本市が今年度から取り組んでおります世界ジオパーク認定に向けた取り組みの推進や、本市が標榜しております交流拠点都市の実現を図るものであります。

次に、教育費におきましては、小・中学校を耐震補強するための経費として、小学校費に5,437万8,000円を、また中学校費に4,680万8,000円を計上いたしております。学校施設は児童・生徒の学習の場であるとともに、災害時には地域住民の方の避難場所としての役割も持っておりますことから、その安全

性の確保は極めて重要であります。このたび、国の補助金を活用できることとなったことから、新年度で対応をする予定としていた事業を繰り上げて実施をするものであります。

歳入におきましては、一般財源として特別交付税を1,833万8,000円、特定財源として国庫支出金、県支出金、市債を8,534万8,000円計上しております。

以上により、既定の歳入歳出予算の総額に、今回の歳入歳出補正額1億368万6,000円を追加をし、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ179億5,804万円とするものであります。また、地方債の補正では、小学校債を追加し、中学校債では、地方債の補正を行うものであります。

議案第2号は、美祢市高齢者コミュニティセンターの設置及び管理に関する条例の廃止についてであります。

高齢者コミュニティセンターは、高齢社会に対応し、地域のコミュニティを推進するため昭和57年3月秋芳町秋吉に建設をされ、現在は社会福祉法人美祢市社会福祉協議会を指定管理者に指定をし、管理、運営をしております。

しかしながら、現在の施設の利用は、施設の本来の目的である高齢者福祉のみならず、地域福祉活動の拠点としての活用が多いという状況にあることから、今年度末をもって美祢市高齢者コミュニティセンターを廃止をしたいので、同施設の設置及び管理に関する条例を廃止するものであります。

なお、廃止後は現在の指定管理者である社会福祉法人美祢市社会福祉協議会への貸与を行い、施設の活用範囲を障害者福祉、児童福祉等、地域福祉活動全般に対応できる地域福祉活動の拠点施設として利用することにより、住民福祉の向上を図ることといたしております。

以上、提出をいたしました議案2件について、御説明を申し上げましたが、よろしく御審議の上、御議決賜りますようお願いを申し上げます。

議長（秋山哲朗君） これにて提案理由の説明を終わります。

これより、議案の質疑に入ります。

日程第3、議案第1号平成23年度美祢市一般会計補正予算（第10号）の質疑を行います。質疑はありませんか。岡山議員。

2番（岡山 隆君） 今、市長のほうから御説明がありましたけれども、教育費の

国庫補助金、小・中学校併せて3,614万8,000円ついております。それで、またそれに対して小・中学校の学校の耐震化、さらに進めていくということで、教育債として4,670万円ついております。

そこでですけど、まず国庫補助金の率ですね、耐震化が0.3、第2次診断で0.3以下であった、また0.7以下であった場合の国庫補助率が違ってくると思っておりますけれども、まずその辺について、今回のこれだけじゃちょっとわかりませんので、各それぞれ小学校の耐震の補修ということで進められるわけでありましてけれども、その辺の、国庫補助の率、その辺についてちょっとご説明して、まずいただきたいなと思っております。

議長（秋山哲朗君） 奥田財政課長。

総務部財政課長（奥田源良君） 只今の岡山議員の御質問にお答えをいたします。

国庫補助金の率でございますが、Is値が0.7未満につきましては2分の1、Is値が0.3未満につきましては3分の2でございます。これに補助単価が2万4,900円となっておりますので、学校の面積を、それぞれの施設の面積を掛けたものが補助金額となります。

以上でございます。

議長（秋山哲朗君） 岡山議員。

2番（岡山 隆君） 耐震化ですね。悪ければ、0.3以下であれば、その補助率というのが3分の2ということで、67%ぐらいつく。そうでないところは、国庫補助率が半分しかつかない。そういう形で特に危ないところほどよく国庫補助金がついているということもよくわかりました。

それで、これにあたって教育債、ついております。市債なんでしょうけれども、国から来るお金。あと、残りの国庫補助、県補助つきますけれども、あと残りの部分ちゅうのは市が市債を起こして、そして学校の耐震化のためにお金を投入していくわけでありましてけれども、この市債、この市債はどこから、種類がどういったものか、またどの機関から借りたものか、この辺について、ちょっとわからないところがありますので、説明していただきたい。

議長（秋山哲朗君） 奥田財政課長。

総務部財政課長（奥田源良君） 只今の市債をどこで借り入れるかというところで思っておりますが、今回の市債は国の補正、3次補正予算についたものでございま

して、補正予算債と通称は言っております。借入先につきましては、財務省、いわゆる政府資金、または地方公共団体金融機構を予定をしております。地方債の借入れにつきましては、地方債の事業の種類ごとに借入資金、借入れ先が決められております。今回計上をしております市債におきましても、政府資金あるいは金融機構を指定されておりますので、それに従いまして、県と借入れの協議に入りたいと思っております。

以上でございます。

議長（秋山哲朗君） 岡山議員。

2番（岡山 隆君） この財源については、市債については、財務省の地方公共団体の機構から、政府機関から借りられるということで説明がありました。今後とも耐震化、今美祢市としても市長のほうも熱を入れられて推し進められて、かなり合併前には65%であったのが、80%今ぐらい、大嶺中学校の校舎やってますけど、なるということで、またさらに、これによって一段と私は進んでくるとは思っております。

今後とも学校の耐震化を推し進めるにあたって、またさらに進めていくと、これから思いますけれども、同様にこういった起債というのを起こして、そして同様に地方公共団体のそういった政府の金融機関から今後とも、何ていいますか、起債を起こしていく。こういったスタンスでいかれるのかどうか、この点だけ最後確認して終わります。

議長（秋山哲朗君） 奥田財政課長。

総務部財政課長（奥田源良君） 今後の公共施設といいますが、施設の改修の市債の借入れをするかという御質問だったと思えますけど、今後も大きい事業につきましては借入れを行いたいと思えますし、また借入れに際しましては過疎債なり、交付税措置のある有利な市債を起債して、活用して事業を実施したいと思えます。

以上でございます。

議長（秋山哲朗君） そのほか質疑はありませんか。三好議員。

6番（三好睦子君） 商工費の中の観光費なんですけど、1 11なんですけど、この中で、提案説明の中では、この事業によるロゲイニングポイントを調査、設定することにより美祢市の魅力を再発見しとありますが、この委託料がありますが、こ

れは多分日本ロゲイニングに委託される、どこに委託をされるのでしょうか。

議長（秋山哲朗君） 綿谷観光振興課長。

総合観光部観光振興課長（綿谷敦朗君） 只今の三好議員の御質問でございますが、美祢市魅力再発見事業の250万円につきましては、美祢市観光協会のほうに委託をしまして、そちらのほうからまた、ロゲイニング協会等々、協議をして事業を進めてまいるように考えております。

以上でございます。

議長（秋山哲朗君） 三好議員。

6番（三好睦子君） そしたら、当然この地図とかコンパス代とかも入ってますし、その観光協会は当然美祢市の住民の方なんですけど、本当に動かれる方はやはり観光協会の方なんでしょうか。

議長（秋山哲朗君） 綿谷観光振興課長。

総合観光部観光振興課長（綿谷敦朗君） 只今の質問でございますが、事務局として美祢市観光協会を考えております。実際のスタッフにつきましては、ロゲイニング協会のほうからも派遣もされますし、私ども総合観光部のほうもスタッフとして参加する予定でございます。

以上でございます。

議長（秋山哲朗君） よろしいですか。河本議員。

10番（河本芳久君） 今、学校の耐震化事業の一環として、小学校と中学校の施設の改修を行うと、こういう説明がございましたが、1件はどこの学校の施設の改修をされるのか。それから、この耐震化計画は必要なことではあるが、将来の学校の規模適正化の構想の中にこれはどう、今後考えていかれるのか。というのは、今小学校22校、現段階は22校、その内16校あまりが複式学級を持っており、いわゆる小規模校で学校運営が非常に厳しい状況にある。ますます少子化が進めば、そういった学校に対して、将来構想というのが市全体で打ちたてられていくであろう。そういったことを前提として、将来構想との関わりで、これをどういうふうに見受け止めて実施されておられるのか、この辺をお聞きしたいと思います。

議長（秋山哲朗君） 石田教育委員会事務局次長。

教育委員会事務局次長（石田淳司君） 只今、河本議員のほうからの質問でございますが、小学校につきましては、重安小学校の体育館、伊佐小学校の体育館、嘉万

小学校の校舎でございます。中学校につきましては、伊佐中学校の教室と、それから福中学校の体育館でございます。

2点目の、将来の学校の適正化規模との整合性はどうかということでございます。先ほど、市長から議案説明がありましたように、学校施設というのは、児童・生徒が学ぶ場でもありますし、避難場所として活用される場でもあります。さらには、学校開放事業などを通じて、地域コミュニティが図られる場でもあるということで、極めて重要な場所であるというふうに考えています。

現在のところ美祢市では、河本議員おっしゃったように、小学校のうち、16校がいずれかの学年で複式学級になってるという状況でございます。現在のところ適正規模、適正配置についての基本的な指針といえますか、計画は示されておらないところではございますが、来年度以降そのことについて本格的に論議を始めて、市民の皆様方の意見などを伺うということを考えているところでございます。先ほど申しましたとおり、学校というのはいろんな側面で活用される場でもありますので、基本的には今後とも学校である限りその耐震化を進めるという考えで、私どもは動いているところでございます。

以上です。

議長（秋山哲朗君） ちょっとお願いですけれども、これ一般会計補正予算全般的なことでもありますけれども、所管の委員会に付託しますので、できるならば所管の委員会、自分の委員会以外の質問をしていただきたいと思ひますし、詳細にわたってやられると、所管の委員会に付託する意味がなくなりますので、その辺の御理解をしていただきたいというふうに思ひます。南口議員。

21番（南口彰夫君） 只今、秋山議長が指摘されるのはもっともだと思ひます。もっともだと思ひますからこそ、もう所管の委員の、特に23年度の補正予算については、主たるところの質問は所管の委員の方々が既に出されているので、この際委員会付託を省略するというところに切り変えるということのほうが現実的ではないかと思ひます。以上。（発言する者あり）

議長（秋山哲朗君） これは、既に議会運営委員会で所管の委員会に付託するということは決定しておりますので、所管の委員会には付託したいと思ひますので、ちょっと田邊議員お待ちください、だから、（発言する者あり）田邊議員ちょっと待ってください、ちょっと待ってください。そのことを踏まえて、この本会場では質

問していただきたいというふうに思います。（「議長」と呼ぶ者あり）ちょっと待って、田邊議員、どうぞ。

14番（田邊諄祐君） 私もめったに南口議員の意見に賛成することはないんですけど、僕は賛成です。ていいますのは、教育なんかっていうのは、議員一人ひとりやっぱり市民の意見を聞いて、いろんな問題をやっぱり市に問いただして解決していかなければいけないと思うんです。ですから、委員会であれば、我々は意見を発言をできないような、今議会運営になってますので、それは南口議員が言われるとおりだと思いますので、ぜひそのように議長、取り計らってほしいと思いますし、今の学校の耐震工事については、私も意見を持っていますので、ぜひ言わせてほしいと思います。

以上です。（「議長」と呼ぶ者あり）

議長（秋山哲朗君） ちょっと待ってください。田邊議員、今の言われるのよくわかるんですけども、田邊議員は教育民生委員会の委員でございませぬから、ここで発言されるの結構だと思います。ちょっと趣旨が、ちょっと今私ちょっと違いました。（「わかりました」と呼ぶ者あり）安富議員。

22番（安富法明君） 今、議員から出ている発言なんですが、よく言われることわかるんです。ただ議長の言われるように、もう少し議会の運営上の問題を、既に議会運営委員会を開いて委員会付託を決めております。ですから、その段階でその議案について、これ本会議、委員会付託を省略するっていうふうな取り決めがされておるのであれば、それはそういうふうに進められるわけですけども、その辺も十分に議長のほうからも、議長が説明するというよりは議員が理解をすべきことなんでしょうけれども、された上でないと、何も議論ちゅうか、前段で議論がされずに本会議が開かれているような印象を持たれることは、非常に議会運営上問題があるというふうに思いますんで、その辺のことを、議長、十分に発言の中で説明をされるべきだろうというふうに思いますが。

議長（秋山哲朗君） まさに安富議員が言われたとおりでありまして、当然、議会運営委員会でも既に決まっておりますので、あくまでも委員会に、所管の委員会に付託したいというふうに思っております。

これを受けまして、田邊議員、どうぞ。

14番（田邊諄祐君） 耐震構造ですけど、確かに地震により尊い命が失われると

ということで、学校に耐震施設を設けるといのは、私は非常に大事なことだと思います。しかし、山口県、特にこの美祢市は有史以来いつ地震があったのか、その辺を一つお聞きしたいのと、国が進めたからといって、どんどん耐震構造、例えば重安小学校なんか今人数は20人、確かおるかおらんか前後だと思います。それから田代小学校についても七、八人、あるいはまだ少ない桃木なんかもあると思うんですけど、それをいちいち耐震構造を大義名分にやってたら、これは金が幾らあっても足りんと思うんです。それよりは、要するに国が破産したら、それこそ自殺者も何万人、何千人、何百万人ってなると僕は思うんです。ですから、やはりここは、教育長は前、国が補助出したのに何が悪いかと言われましたけど、私はやっぱり教育長がそういう考えであれば、大阪の橋下市長ですか、市長が言われるように、教育委員会なんか僕は要らないと思うんです。やはりこの美祢市で、やっぱり市長を始め財政のことを考えて、やはり無駄な投資はしない。それからできるだけ工夫をして、例えば重安の小学校の体育館を耐震構造にするのに、僕は鉄鋼で体育館の中に地震がきて、崩れても大丈夫なような鉄鋼のある一つのブロックをした建屋の中に、机の頑丈なようなものをつくって、その中に生徒が20人ぐらいならいくらでも収容できますので、何も5,000万円も6,000万円もかけてやる必要はないと思いますし、これ全部で約美祢市の耐震施設に9億もかけるというのは、今の美祢市の財政からは、とても僕は考えられんと思うんです。市長はもし、本当に節約の気持ちがあるのであれば、僕は一遍にやらなくても5年か6年かけて、地震が東北とか関東は、私も福島県の田村郡に三、四年ぐらいおりましたけど、市長も田村郡には行かれたと思いますけど、あの辺は石灰岩台地ですけど、震度5ぐらいの地震が来ても私は気が付かなかったぐらいですから、そういうことで山口県のここは石灰岩台地ですので地震も少ないし、僕は金を使いすぎだと思いますが、市長、それから教育長にまずお伺いします。いかがでございますでしょうか。

議長（秋山哲朗君） 永富教育長。

教育長（永富康文君） 田邊議員の御質問にお答えをいたしたいと思います。これまで何度か申し上げましたと思いますけれども、学校の耐震化につきましては、国からも東日本大震災の状況等も踏まえながら、平成27年度末までの、それできるだけ早い時期に、学校の耐震化をするようにというふうに求められているところでございます。また、そのために国も手厚い財政的な支援をしようとしているという

ふうな状況でございます。美祢市は地震がないというふうな意味のことをおっしゃられますけれども、全くないというわけじゃありませんし、またいつ何時どのようなことが起こるか、それはなかなか想定しにくいところでもありますので、万全を期して、子どもたちの安心・安全、最優先課題、喫緊の課題というふうに考えておりました、学校の再編整備とはとりあえず切り離して、現在の学校施設の耐震化を図っていくというふうに考えてございます。その際は、今おっしゃいましたように、田代も含めて、すべてのではありません。すべての学校ということではございませんで、必要な耐震診断を行った上で、必要なところに必要な耐震補強を行っていくというふうな考えで、計画的にやっていますので、御理解をどうぞお願いしたいと思っております。

議長（秋山哲朗君） 村田市長。

市長（村田弘司君） 田邊議員が教育長と市長というふうにおっしゃって、まず教育長とおっしゃいましたんで、2番目の市長の私がお答えいたしましょう。

田邊議員、先ほど下手に金を使いすぎていくと、国がつぶれて自殺者がふえていくとおっしゃったけれども、この直接的に耐震化を進めておるということは、この大震災を踏まえた上でのことでもあります。この東北の大震災も、想定外と言われておりました。想定をしてなかったことがあって、直接的に多くの命が失われたということを御承知だろうというふうに思っております。先ほど石田次長も申しましたけれど、この学校施設というのは、大事な大事な我々の宝物であるお子さん方をお預かりしている施設であると同時に、万が一のときには、各地域の住民の方々が逃げ込む避難先のセンターであるということも御理解いただきたい。ですから、先ほど河本議員が学校の再編等のリンクはされとるかということをおっしゃったけれども、当然のごとくしていきます。いきますけれども、万が一、将来的に学校の統廃合あるにしても、その残った学校というのは、その地域の方々、この建屋というものは、避難所としてのセンターの機能は永遠に続くわけでございます。

地震も美祢市はないんやからええじゃないか、あなたは今福島県の田村におったけれども、震度5の地震が来たけれども感じなかったということおっしゃったけれども、私なら感じます。震度5の地震というのは非常な地震、私は田村市の市長の冨塚市長とも親しい、随分話をさせていただいてます。想定外ということが起こるということを、本当に今回肝に銘じたと田村市の市長はおっしゃった。私もそうだろ

うと思います。行政のトップとして、将来いつどこでどんな形で天災、災害が起こるかわからないということを想定をして、市民の安全・安心を守るために投資を行っていくということは必要だろうと思っています。

それと、この美祢市の財政が、このことによって破綻をするんじゃないかということをおっしゃったけれども、よく勉強しとってください。例えば補助事業については、3分の2、耐震化率が低いところは、3分の2国のお金がつきます。残りの3分の1が美祢市のお金ということで、お金を借りますよと言いましたけれども、その3分の1部分の8割、これは交付税で国からまたお金が入ってくるということになる。ですから実質的には市の負担は1割ということをお聞きいただきたい。その辺のことも幾度も御説明をしておると思いますけれども、計画的にきちり国のお金も使わせていただいている。国も財政的に厳しいけれども、国民の安全・安心を守るためにどうしても、そして将来の宝である、将来を担ってもらう若い子供たちを守るためにはどうしても必要ということで、この全国の校舎の耐震化を進めておるということも理解をしておいていただきたい。その辺のことを勉強された上で、今のような質問をしていただきたいと思います。

以上でございます。

議長（秋山哲朗君） 田邊議員。

14番（田邊諄祐君） 確かに市長の言われるとおりよくわかるんですけど、交付税もこれ我々の税金からもともと払ったお金なんです。ですから、しかも国も今御存知のように1兆円か借金をして、国も当てにならないような状態なんです。我々のやっぱりこれからの財政を守るのは、市民一人ひとり、美祢市、地方からやっていかないと、私は今のような市長の考えは、僕は間違っていると思います。

それからもう一つ、もう一つは要するに重安小学校は20人かそこらですから、やっぱり大嶺小学校と合併するようなことを考えれば、このような大金はいらないわけですから、その合併のほうを先にやるべきだと僕は思いますけど、石田さんがさっき言われましたけど、来年からそういう意見を聞くんだって言われるけど、建物建てた後になってつくったって何にもならんと思うんですけど、その辺はどうでしょうか。

議長（秋山哲朗君） 村田市長。（「そののちよっともともと、その前にちよっと」と呼ぶ者あり）

市長（村田弘司君） 田邊議員、あなた重安にお住まいだけれども、重安小学校なくして、大嶺小学校と統合したほうが良いということ今おっしゃいました。あなたが一個人としておっしゃっておるんか、議員としておっしゃっておるんかわかりませんけれども、このことについては本当に過去何遍私はお答えしたですか。この1期4年間の間は私は市長にならしていただいた約束で、この学校の統廃合は行いませんと、この間熟慮させていただいて、2期目以降、私が2期目を担わせていただけるのであれば、その時点でやりますということで、この4月から来年度になります。ことしの4月からなります。そこから具体的に入らせていただくということを幾度も申し上げておると思います。その辺のことも、あなたは幾度も私の話を聞いておられると思いますけれども、聞いておられなかったでしょうか、逆にお伺いしたい。

14番（田邊諄祐君） 何回も聞いております。しかし（「田邊議員、手を挙げて言うてください」と呼ぶ者あり）はいはい。何回も聞いております。しかし、僕は北分の人いろいろ意見を聞いて発言しているわけですから、あくまでも北分の代表、市民の代表として話をしてるんです。そりゃ市長と名が付けば誰だって頭は下げますし、嫌なことは言いません。しかし、我々には直接嫌なことまで言うてるわけですから、当然我々の意見を聞いていただくのは、僕は当たり前だと思います。それを聞く耳を持たんていうのは僕は反対だと思いますが、いかがでしょうか。（発言する者あり）僕は、ちょっと教育長にお聞きしたいんですけど、これは北分の人意見で学校を改築するようになったんですか。その辺をお聞きしたいんですが。

議長（秋山哲朗君） ちょっと今議論がちょっとかみ合いませんもんで、ちょっとどうしましょうか。

14番（田邊諄祐君） ちょっと待ってください。いいですか、あなたの会派の者、それから竹岡さんの会派の者の意見は、何も意見を聞いて、我々の意見は聞かないちゅうのはおかしいんじゃないですか。

議長（秋山哲朗君） 議会の運営上、そのようなことは一切しませんし、皆さんの意見を聞くつもり...

14番（田邊諄祐君） この間、山本さんが退場された。私がやったときは随分批判されました。しかも追及されて、とうとう最後は謝られましたけど。彼は議場

から退避したときは何も言われなかったじゃないですか。それから徳並さんが、いいですか、徳並さんが私に対して、名前は具体的に言われませんでした。委員会で決めたことは、例え反対であっても本会議で反対をしちゃいけないというのに、委員長も副委員長も委員会で否決されたこと、秋吉の家族村の件ですけど、これは委員会で否決されたんです。ところが、本会議では賛成に回られたです。自分たちの会派の者がそういうことをして、我々がやったときは大変批判する。それが今の美祢市の議会じゃないですか。都合の悪いことは、いいですかMYTの方、これテレビにちゃんと私の意見を報道してください。カットしちゃいけませんよ、いいですか。今までは都合の悪いことは、私のこういう意見を必ずカットして、皆さんの、議長の会派とか竹岡さんの会派の者の言うことは全部放送する。だから非常にちぐはぐになっているんです。だから、（発言する者あり）いやいや、（「ちょっと待ってください」と呼ぶ者あり）やれんじゃないですか、さっきあんた議長が自由討議をされると言われたじゃないですか。

議長（秋山哲朗君） いやいや自由討議、そういうことは言っておりません。発言の自由はありますということはいいましたが、自由討議とは言っておりません。ただ、まことに申しわけございません。平成24年第1回臨時会始まったばかりでございまして（「僕はなかなかいいことだと思いますけどね」と呼ぶ者あり）暫時休憩をして、その間会派代表者会議を開きたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

午前10時49分休憩

.....

午前11時15分再開

議長（秋山哲朗君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

なお、私からのお願いでありますけども、只今の議案は、議案第1号の平成23年度美祢市一般会計補正予算についての議論であります。これにつきましての議論ならばどういう発言でも結構ですけども、これから大きく逸脱した発言については許可いたしませんので、その辺御了解のほどお願いしたいと思っております。

質疑ございませんか。（「議長、ちょっとわからなかったですもう一度」と呼ぶ者あり）そうですか。只今の今の議題は、平成23年度の美祢市の一般会計の補正予算に対する議案の質疑でございますので、これから大きく逸脱したような発言に

については、私は許可いたしませんので御了解のほどお願いしたいと思います。

なお、先ほどから北分の学校の統廃合の問題出ておりますけども、これについての発言ございますか。柴崎議員。

13番（柴崎修一郎君） 私も田邊議員と同じ北分ですから、一言今の学校の統廃合に関して、ちょっと一言発言させていただきたいと思います。

まず、私も教育民生委員会ですから、現在教育民生委員会として、やはり小学校が22校中16校が複式学級になってるということで、我々も視察をいろいろ2年間箱根からあるいは熊本、視察行ってきました。そういう中で今教育民生委員会としては、学校規模適正化の審議会を立ち上げてほしいという要望を近々出すようにしております。これは、現在の今の教育民生委員会の学校統廃合に対する流れでございます。その中で、私も北分ですから、いろいろ北分の皆さんの意見聞いております。

やはり、中には子供が、今年の運動会でも19名でございました。この中で、やはり小学校が、子供が競争でいろいろ少ない中で、1学年二、三人で授業を受けていますから、やはり競争っていいですか、こういう言葉は非常にマイナス面もあるということで、親の意見を私どもも聞いております。その中で、やはり少しの一部の人は、学校をある程度どうにかせにゃいけないのやないかという意見もございます。その中でやはり、家庭に帰るとやはりお年寄りとかこういう方が、どうしてもやっぱり学校に対してはやはり残してほしいと。だからそういうことでやっぱり北分の皆さんは、学校の統廃合と、それから今の小学校をいかに今後どういうふうに統廃合になった場合利用していくかと、別問題と考えるようです。だからどうしてもお年寄りは、特に敬老会なんか行きましても、やはり学校は残してほしいと。だからその学校を残すのは、特に体育館なんかは震災があったとき、特に水害なんかが起こるわけですから、山崩れとかこういうのが起こるわけですから、やはりいざというときは、学校の講堂が体育館が使えるような態勢にしてほしいという希望はほとんどあります。その中で学校の統廃合に関しては、一部の方少しはおられますけど、大半の方はまだそこまではという意見が多いようでございます。

以上でございます。

議長（秋山哲朗君） 岩本議員。

8番（岩本明央君） 私、先ほど議長のおっしゃられました議会運営委員会の決定

事項は、やはり最重点的に尊重しなきゃいけないと思っております。

もう一つ、やはり議長の発言がありましたように、常任委員会に属しておる議員は、やはりその常任委員会で審議を十分されるべきではなかろうかと、こういうふうに全く同感でございます。そういうことで、やはりこの本会議でのあるべき姿ちゅうものを、やはり先ほどおっしゃったようなかたで、議長がおっしゃったようにぜひ、進めていただきたい、こういうふうに思っております。

先ほど、課長が説明されましたことですが、資料をいただきました、1 10、ちょっと見てもらえますか。ここで歳出があるわけですが、私まだちょっと説明不足があるんじゃないかと思えます。先ほど市長の申されましたような地方交付税の後の返ってくるものの問題も、やはりぜひ説明してほしいし、1 10の一番上のほうの商工費、これは国県が250万円で一般財源はゼロです。下の小学校費、中学校費もやはり国県なり市債、それから一番右のほうに小学校では市の一般財源として251万1,000円、それから中学校費として1,582万7,000円が市の財源としてというふうに書いてあります。この辺もやはり説明をしてもらわないと、先ほどの岡山議員なり田邊議員あたりの質問が出てくるんじゃないかと思えます。この説明を、今私が簡単に申し上げましたけど、してもらおうと国県が何ぼですよ、市債が何ぼですよ、これは市長がさっき言われたように8割は返ってきますよと、一般財源がこうですよちゅうことを、ぜひこれからも説明をしていただきたいということを要望いたします。

以上です。

議長（秋山哲朗君） 要望でいいんですか。

8番（岩本明央君） はい。

議長（秋山哲朗君） 竹岡議員。

24番（竹岡昌治君） 最初にお断りしておきたいと思うんですが、議案からちょっと逸脱するんですが、あえて議会の運営に関してということで、議長、発言を許可いただけますでしょうか。

議長（秋山哲朗君） はい、いいです。どうぞ。

24番（竹岡昌治君） 許可いただいたんで、ちょっと申し上げたいと思えます。

朝から、もう既に11時を回るような時間で、議案説明と質疑に入っただけです。南口議員が、発言が委員会付託をしなくてもいいんじゃないかということで、一部

の議員さんからはそうだというような、これはおそらく議事録には載らないとは思
うんです。ですが、先ほど岩本議員もおっしゃったように、それから安富議員も言
われるように、やはり議会は地方自治法あるいは委員会条例から議会規則、全部
ルールがあるわけです。それにはないものは、今度は申し合わせ事項ということで実
際やってます。必ず所管の委員会の議員さん方が本会議場で質問してはいけないと
は書いてないんです。ないんですが、今までの申し合わせとしては、その辺の、深
く議論に入る場合は、私も時々総務企業におりながら総務系の質問はさせていただ
きます。しかしながら資料要求したり、あるいはこれ以上の議論は所管の委員会で
やりますというようなやり方でしてきたと思うんです。その辺の所管の委員の皆さ
ん方の節度ある質問ということ、やっぱ再認識していただきたい。

それから田邊議員の発言の中で、よく意味がわからないんですが、竹岡って選挙
運動じゃあるまいし5回も6回も連呼されましたので、政和会の名誉にかけて説明
をさせていただきます。

私ども竹岡っていう会派はありません。政和会という会派が新政会の皆さんと
10人ぐらいで、常に議会あるいは議会の間で勉強会やってるんです。議案に対し
て、あるいは今度は政策提言に関して、これをずっと約4年間やってまいりました。
その結果、私たちはルールに基づいて発言をしたり、提言をしたりしてまいったわ
けであります。ぜひ、議員の皆さん方にもぜひその辺をしっかりと守って、ルー
ルに基づいた議会運営に協力をしていただきたいし、議長もそういうリーダーシップ
を取っていただきたい。いうことを要望を申し上げまして、発言を終わりたいと思
います。

以上です。

議長（秋山哲朗君） 三好議員。

6番（三好睦子君） 美祢市魅力再発見事業の件で、再度お尋ねをさせていただきます。

美祢市の観光協会が事務局で、実際に活動されるのはロゲイニング協会というこ
となんです、このメンバーの中に美祢市民の方がいらっしゃるのでしょうか。

議長（秋山哲朗君） 綿谷観光振興課長。

総合観光部観光振興課長（綿谷敦朗君） 只今の質問にお答え申し上げます。

ロゲイニング協会には、美祢市の市民の方はいらっしゃいません。ただし、その

イベントを開催するにあたりまして、地元の方々のイベント協力等で、地元の方々に協力をお願いするということはございます。ですから、ロゲイニング協会スタッフには美祢市の方はいらっしゃいません。

以上でございます。

議長（秋山哲朗君） そのほか。田邊議員。

14番（田邊諄祐君） 先ほどの件で……

議長（秋山哲朗君） マイク入ってない。

14番（田邊諄祐君） 私は先ほどの意見で間違ったとは思ってませんし、当然議会の中ですから、自由闊達に意見をすることは、これは当たり前の話です。それを何とか理屈で言わせんようにするっていうのは、私は議員になって10年ぐらいになりますけど、それが1番不満なんです。

要するに議長も、市長も、それから議員も、誰もが公平公正にやればだれも文句は言わないし、立派な議会になりますし、美祢市も発展すると思うんです。根本は僕はそこにあると思うんです。

それからもう一つは、これは今のこの議題に関係すると思いますけど、東北や関東は北海道もそうですけど、非常に地震が多いんです。1年に一遍ぐらい皆さんも聞いておられると思いますけど、非常に地震が多いです。東北とこの美祢市は、僕は有史以来地震はなかったと思います、震度4以上のは。その辺は調べられたんでしょうか。僕は本当に9億近く耐震、確かに地震でその安心・安全は大事なんですけど、9億を投資するっていうえば、やはり過去の美祢市の本当に震度4以上の地震があったのかどうか、その辺も含めて検討した上で計画されるなら、私は一言もいいません。その辺も、教育長どうなんですか。僕はされてないんじゃないかと思います。

以上ですけど。

議長（秋山哲朗君） 田邊議員、あの……

14番（田邊諄祐君） もう一つ、市長の意見が、僕は全て正しいんだと、俺の言うことを聞いているのは、僕はこれは根本的に市長の姿勢間違っていると思います。

以上です。

議長（秋山哲朗君） 田邊議員、田邊議員。

14番（田邊諄祐君） はい。

議長（秋山哲朗君） ここは本会議場であります。やはり議会にはルールとマナーっていうのがあると思うんです。

14番（田邊諄祐君） ルールはどこが間違っていますか。

議長（秋山哲朗君） ちょっと待ってください。本会議場です。あくまでも、この議案に逸脱したものについては……

14番（田邊諄祐君） 議案に、市長がさっき答弁された中の内容を言ってるんじゃないですか。

議長（秋山哲朗君） あなたのいけないところは、今そういう勝手に自由気ままに発言することがいけないんです。私今、あなたに当ててません。

14番（田邊諄祐君） 待ってください。

議長（秋山哲朗君） 今あなたに当ててません。私が発言してますので、座ってください。

14番（田邊諄祐君） はい。

議長（秋山哲朗君） 昨年3月の24日に議会の基本条例を制定してます。その中に自由活発に意見言える自由討議、そして政策討論会ということがございます。御存知ですよ。そこで自由闊達な意見を言われるのは自由です。ただ、ここはあくまでも本会議場でありますので、議会のルールにのっとって、私が仕切ります。いいですか。

14番（田邊諄祐君） はい。それが、それが要するに公平公正にやられんで、一方的に都合の悪いときは議会の基準があるからって言われるんです。だけど、あなたの方の会派がルールは破っても無視されて、結局我々には今のように強行に出られるんです。それがいけんって言ってるんです。公平公正じゃないじゃないですか。

議長（秋山哲朗君） ほかの議員の方は、ほとんどルールを守っておられます。あなただけです、守ってられないのは。

14番（田邊諄祐君） いや、そんなことはないです。

議長（秋山哲朗君） 座ってください。座ってください、これ以上議論するつもりはありません。座ってください。

教育長、何かございますか。はい、どうぞ、教育長。

教育長（永富康文君） 只今の御質問でございますけども、これまで市長からも答弁がありましたように、学校といいますものは、児童・生徒の学習の場であります

とともに、地域コミュニティの場でもありますし、また、災害時には避難所になるという場でもありますし、実際に美祢市におきましても、何度か夏の豪雨等ございまして、学校が避難所になったということもございまして。そういうふうなものがあることで、地域の方々も安心していらっしゃるという面もありますので、そういうような意味で総合的に、いろんな面で多角的に考えて、この学校施設の耐震化を図ろうとしておるところでございます。

田邊議員が前におっしゃいましたように、全国的にそういうふうなどの地域のどの学校におきましても、安心して児童・生徒あるいは地域の方々がお越しするようなそういうふうな耐震化を、国の方針として最優先課題、財政上非常に厳しい中で最優先課題として国もやるし、地方も一緒にやりましょうというふうな状況の中で、美祢市だけがそれに乗らないで、学校の児童・生徒が、先ほどおっしゃいましたように、体育館の中で囲いをつくってそこで過ごせばいいというふうなことでは、市民の方々、児童・生徒の保護者の方の御安心は得られないというふうに判断しまして、取り組んでいるところでございます。そういう点では、ぜひ御理解いただきたいと思っております。

議長（秋山哲朗君） そのほか、質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（秋山哲朗君） 質疑なしと認め、質疑を終わります。

只今議題となっております議案第1号は、所管の委員会へ付託いたします。

日程第4、議案第2号美祢市高齢者コミュニティセンターの設置及び管理に関する条例の廃止についての質疑を行います。質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（秋山哲朗君） 質疑なしと認め、質疑を終わります。

只今議題となっております議案の第2号は、所管の委員会へ付託いたします。

この際暫時休憩をいたします。この間に建設観光委員会、教育民生委員会の開催をお願いいたします。

午前 11時30分休憩

.....

午後 1時30分再開

議長（秋山哲朗君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第 3、議案第 1 号と日程第 4、議案第 2 号を議題といたします。

本件に関し、常任委員長の報告を求めます。建設観光委員長。

〔建設観光委員長 馬屋原眞一君 登壇〕

建設観光委員長（馬屋原眞一君） 只今より、建設観光委員会の委員長報告を申し上げます。

本日、本委員会に付託されました議案第 1 号平成 23 年度美祢市一般会計補正予算（第 10 号）につきまして、委員 6 名出席のもとで審査をしましたので、その審査の経過と結果について御報告申し上げます。

執行部より、今回の補正は美祢市魅力再発見事業として、市内に点在している地質、文化、歴史資産などをロゲイニングポイントとして調査、設定をするために、観光費の委託料を 250 万円増額補正するものです。なお、これは全額県補助金を充当するものです。

ロゲイニングとは、自然の中に設置されたポイントを地図、コンパスを使用し、制限時間内に数多く回り、獲得した点数を競う競技で、この競技を活用し訪れてもらいたい場所をロゲイニングポイントとして設定し、ポイントごとの点数に変化をつけ、差別化を図り、ポイント獲得上位者を表彰するなどして、誘客を図ろうとするものです。

なお、市内にある地質、歴史資産のロゲイニングポイントはジオポイントとなるところが多いと考えており、美祢市の魅力を再発見し、今後、市民協働によるイベント等を開催することで、ジオパーク認定に向けた取組の推進や交流拠点都市の実現が図れるものと考えております。との説明がありました。

次に、主な質疑について御説明をいたします。

委員より、今回設定するロゲイニングポイントの維持、管理など、今後の運営についてはどう考えているのかとの問いに対し、執行部より、ロゲイニングポイントについては、秋吉台上の記念碑、弁天池など、ある一つのポイントを考えています。今後の運営については、一旦ポイントを決めるノウハウ等を教えていただければ、後は独自のローカルロゲイニングを続けていきたいと考えていますとの答弁がありました。

次に、委員より、設定するポイントの数はどの程度考えているのかとの問いに対し、執行部より 1 エリア大体 3 時間のエリア設定とし、30 程度のポイント数を考えて

いますとの答弁がありました。

その他の質疑については、割愛させていただきます。

本案に対するさしたる意見もなく、慎重審査、採決の結果、全員異議なく全会一致にて原案のとおり可決されました。

以上を持ちまして、建設観光委員長報告を終わります。

〔建設観光委員長 馬屋原眞一君 発言席に着く〕

議長（秋山哲朗君） 建設観光委員長報告に対する質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（秋山哲朗君） 質疑なしと認め、建設観光委員長の報告を終わります。

続いて、教育民生委員長の報告を求めます。教育民生委員長。

〔教育民生委員長 山本昌二君 登壇〕

教育民生委員長（山本昌二君） 只今より、教育民生委員会の委員長報告を申し上げます。

本日、本委員会に付託されました議案第1号平成23年度美祢市一般会計補正予算（第10号）並びに議案第2号美祢市高齢者コミュニティセンターの設置及び管理に関する条例の廃止についてにつきまして、委員全員出席のもとで審査をいたしましたので、その審査の経過と結果について御報告申し上げます。

初めに、議案第1号平成23年度美祢市一般会計補正予算（第10号）について、御報告いたします。

執行部より、今回の補正は小学校費の学校施設整備費において、5,437万8,000円の増額補正を、中学校費の学校施設整備において、4,680万8,000円の増額補正を計上しています。今年度当初予算において、耐震工事が必要と思われる昭和56年以前の設計で建築された小学校12棟と、中学校4棟の計16棟について、地震防災対策措置法に基づき、第2次耐震診断業務を実施いたしました。その結果、第2次耐震診断結果が確定しているとともに、耐震設計、補強計画策定及び学校施設であり、おおむね夏休み期間に耐震工事が完了すると考えられる、伊佐小学校体育館、重安小学校体育館、嘉万小学校校舎、伊佐中学校教室棟、於福中学校体育館の5棟について、国の第3次補正予算において採択されたため、補正予算を計上したものですとの説明がありました。

次に、主な質疑について御説明いたします。

委員より、今年度で閉校になる鳳鳴小学校の現状の耐震についてお尋ねしたいとの問いに対し、執行部より、校舎は昭和26年10月に建築された木造の建物で、文部科学省が示す耐震化は、非木造が対象となっておりますので、調査の対象外となっております。また、体育館につきましては、平成7年3月に建築された建物ですので、耐震化は確保されていますとの答弁がありました。

また、委員より、耐震化が必要な施設の残りが7棟あるとの説明でしたが、施設を教えてください。今後の計画についてもお尋ねしたいとの問いに対し、執行部より大嶺小学校管理棟、於福、下郷、本郷、嘉万、別府の各小学校体育館及び秋芳北中学校管理棟の7棟です。国からは平成27年度までの早い時期に耐震化を完了する旨の指示を受けておりますので、平成27年度までにはと考えておりますとの答弁がありました。

さらに委員より、工事完了後の美祢市の耐震化率についてお尋ねしたいとの問いに対し、執行部より、平成23年4月現在で耐震化率は、75.3%です。現在建て替え中の大嶺中学校校舎、耐震化が確保されている学校施設等を勘案して、91.4%になる見込みです。

本案に対する意見はなく、採決の結果、全員異議なく、全会一致にて原案のとおり可決されました。

次に、議案第2号美祢市高齢者コミュニティセンターの設置及び管理に関する条例の廃止について、について御報告いたします。

執行部より、美祢市高齢者コミュニティセンターは、高齢化社会に対応し、地域のコミュニティを推進するとともに、地域老人の教養の向上やレクリエーション活動に関する事業等を実施するための高齢者福祉施設として、昭和57年3月に秋芳町秋吉に建設され、現在にいたっています。

しかし、実態は、秋芳地域において、地域福祉に対応する他の施設がないことから、当該施設に対して、地域福祉活動の拠点施設としての機能も求められていますが、施設の設置目的が高齢者福祉に限定されていることから、十分な対応がなされていない状況です。こうした状況を踏まえ、この施設を、地域の実態に則した活用を図るため、このたびの条例の廃止を行うものです。廃止後は、現在に指定管理者である社会福祉法人美祢市社会福祉協議会に貸与し、施設の活用範囲を、障害者福祉、児童福祉等、地域福祉活動全般に対応できる拠点施設として利用し、住民福祉の向

上を図りますとの説明がありました。

次に、主な質疑について御説明します。

委員より、コミュニティセンターの施設整備の計画についてお尋ねしたいとの問いに対し、執行部より、貸与するための施設整備として、補正予算を12月補正予算で計上しておりますとの答弁がありました。

さらに委員より、現在の施設は老朽化しており、活用はできにくい状況にありますが、将来構想も含めて検討していただきたいかがかとの問いに対し、執行部より施設の活用についての声は届いておりますが、まずは、施設全般の安全確保ということで、施設の整備計画をしております。その他の整備につきましては、特に具体的な計画はありませんとの答弁がありました。

本案に対する意見はなく、採決の結果、全員異議なく、全会一致にて原案のとおり可決されました。

以上もちまして、教育民生委員長報告を終わります。

〔教育民生委員長 山本昌二君 発言席に着く〕

議長（秋山哲朗君） 教育民生委員長報告に対する質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（秋山哲朗君） 質疑なしと認め、教育民生委員長の報告を終わります。

これより議案第1号平成23年度美祢市一般会計補正予算（第10号）の討論を行います。本案に対する御意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（秋山哲朗君） 御意見なしと認め、討論を終わります。

これより議案第1号を採決いたします。本案に対する委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（秋山哲朗君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

これより議案第2号美祢市高齢者コミュニティセンターの設置及び管理に関する条例の廃止についての討論を行います。本案に対する御意見はございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（秋山哲朗君） 御意見なしと認め、討論を終わります。

これより議案第2号を採決いたします。本案に対する委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（秋山哲朗君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

以上をもちまして、本臨時会に付議されました事件はすべて終了いたしました。

この際、村田市長より発言の申し出がありましたので、発言を許可いたします。村田市長。

市長（村田弘司君） 議長のお許しをいただきましたので、この場をお借りをして、美祢市病院事業管理者の件で報告をさせていただきます。

本市の病院事業管理者については、平成23年3月31日をもって、前内藤管理者が退任されて以来、空席となっておりますが、後任人事につきまして、これまでの経緯から、山口大学医学部附属病院長に適任者の推選を依頼をしまいったところであります。

これを受けまして、このたび山口大学医学部附属病院長より、山口大学医学部教授で、現在保健学科長の高橋睦夫先生の推選があったところであります。

高橋先生は、山口大学医学部等で35年間にわたり勤務をされまして、医療の最前線に立ちながらも、多くの優秀な医療人を育成をされるとともに、医学研究の分野においても優れた業績をお残しになった方であり、二つの市立病院を一体的に指揮、監督し、将来にわたり良質で安定をした医療の提供と効率的な病院経営を目指しております美祢市病院等事業の管理者に最も適任であるとして選任をしたものであります。高橋先生には、平成24年、ですから、本年の4月1日から病院事業管理者として、その手腕をいかに発揮をされることを期待をしているところであります。

以上、病院事業管理者に関する報告をさせていただきましたが、市議会並びに市民の皆様の御理解と御協力をお願いを申し上げまして、私よりの報告をさせていただきます。

以上でございます。

議長（秋山哲朗君） これにて、平成24年第1回美祢市議会臨時会を閉会いたします。大変お疲れでございました。ありがとうございました。

なお、2時より会派代表者会議を開催いたします。また、会派代表者会議終了後、議員全員協議会を開催いたしますので、よろしく御出席のほどお願いいたします。

午後1時48分閉会

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

平成24年1月12日

美祢市議会議長 秋小哲司

会議録署名議員 高木法生

〃 萬代泰生